



英語学習辞書における二重母音と三重母音の 発音表記の異同

岩 井 茂 昭

概要 英語学習辞書（英和辞書および英英辞書）における発音記号は英語の発音体系を論理的に学ぼうとする学習者にとって有益なツールである。しかし、それぞれの学習辞書が採用している発音表記の方法にばらつきがあるため、学習者は発音記号の習得にとまどうことが多い。このことが英語教育において発音記号が十分に活用されていないひとつの原因ではないかと筆者は考える。本論においては、現在出版されている内外の英語学習辞書における二重母音と三重母音の音声表記を比較対象し、その異同の性質の分析に基づいて、英語学習にとって合理的な発音表記の体系について考察する。

キーワード 英語学習辞書, 発音記号, 二重母音, 三重母音

原稿受理日 2007年1月16日

Abstract For learners who aim at a clear and logical understanding of the English pronunciation system, phonetic symbols provided in learners' English dictionaries can be a powerful tool if they are properly used. However, it often happens that Japanese learners become confused by the variation of phonetic symbols between dictionaries, which can cause them to give up learning the symbols. This can also hinder effective utilization of phonetic symbols in English classes in Japan. This paper surveys the variation of phonetic transcriptions from samples of learners' English dictionaries currently published in Japan and abroad, and compares details of transcriptions of diphthongs and triphthongs, aiming to produce a more accessible and educationally fertile table of phonetic symbols.

Key words learner's English dictionary, phonetic symbol, diphthong, triphthong

1. はじめに

英語の発音に意識を向け、その発音体系を論理的に理解する上で、英語学習辞書の発音記号は有益なツールとなりうる。ひとたび発音記号に対応する音声を聴き分け、発声できるようになれば、発音記号に記載されている辞書のすべての英単語の発音が身近なものとなるからである。だが、現在の日本では英語の発音教育において発音記号が十分に活用されているとはいえない状況ではないだろうか。そして、その原因のひとつとして英語学習辞書における発音表記のばらつきがあると考えるのが本論の前提である。

現在出版されている内外の英語学習辞書における単母音の表記の異同についてはすでに論じているので、本論では二重母音、三重母音の音声表記を比較対照し、その異同の性質の分析に基づいて、より合理的で使いやすい発音表記の体系について考察を進めていきたい⁽¹⁾。

2. 各辞書の二重母音、三重母音の発音表記の対照

2.1 比較サンプルとする辞書の選択について

比較対象とする英語学習辞書のサンプルは一般的な普及度が高いと思われる中級以上の英語学習者向けの英和辞書および英英辞書から選んだ。中級者向け辞書の基準として収録語彙の見出し数10万語前後（実際には6万6千語から13万5千語程度までのばらつきがある）を目安とし、また学習辞書の満たす要件は用例が豊富であり語法や文法に関する詳しい解説が盛り込まれていることである。このような基準に基づいて、日本国内で出版されている10種類の英和学習辞書と、海外で出版されている外国人学習者向けの4種類の英英学習辞書を選んだ。比較の際には各辞書の名称を記号化し、英和辞書はJ1、J2のように表記し、英英辞書はE1、E2のように表記するが、それぞれの書誌情報は末尾に参考文献としてあげておく。なお、英和学習辞書の中には同じ編集者が同じ出版社から出版しているものがあり（J4とJ5）、発音表記の原則はほぼ同一であるが、知名度、普及度を考慮して両方をサンプルに含めることとした。

(1) 岩井茂昭。2006年11月。「英語学習辞書における単母音の発音表記の異同」。『生駒経済論叢』第4巻第1号。近畿大学経済学会。

2.2 比較の方法と記述について

実際の比較は以下の原則に基づいて行った。

1. ここでは英語音声のうち二重母音，三重母音を対象とした。サンプルとして選んだ辞書のすべての二重母音，三重母音単母音表記を網羅するために，発音記号表に記載されている「R音性二重母音，三重母音」，「二重母音＋子音 /r/」を含めている。
2. サンプル間の対照を容易にするとともに，個々の発音に関する一般的情報や単語例，特定の辞書固有の表記に関する注をつけるために，1つの発音項目につき1つの比較対照表を作成した。ここでいう1つの発音項目には実際には複数の表記方法（「発音記号」）が含まれる。例えば，「R音化する /Iər/」の音は，各辞書の表記上は /iər/， /Iər/， /iəː/， /Iə ˌ Iə/ などの記号で出現する。発音項目として27項目を設定したが，これは今回のサンプル全体を検討した上で決定した数で，すべての発音記号が表す発音の総数である。
3. 米音と英音が常に異なる音にはR音性母音とそれ以外のものがある。R音性母音は多くの辞書において1つの記号で表記しているため，比較対照表も1つとした。また，R音性母音以外の米音と英音が異なる母音は，多くの辞書で併記方式（米音と英音を縦線で区切る）を採用しているため，異なる発音項目として2つの比較対照表を用意した。
4. 比較対照表において，対象となる発音項目が各辞書の発音記号表に記載されていない場合，表の該当欄を灰色地とし，辞書本文中で実際にどのように記述されているかを示した。

2.3 各辞書における二重母音，三重母音の表記の比較対照

A. 二重母音

① /eɪ/

方言：米英共通音

表記：/eɪ/， /ei/

単語：day /deɪ/ make /meɪk/ say /seɪ/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ei	eɪ	ei	eɪ	eɪ	eɪ	ei	ei	ei	eɪ
E	eɪ	eɪ	eɪ	eɪ						

② /aɪ/

方言：米英共通音

表記：/aɪ/, /ai/

単語：buy /baɪ/ eye /aɪ/ life /laɪf/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ai	aɪ	ai	aɪ	aɪ	aɪ	ai	ai	ai	aɪ
E	ai	aɪ	ai	aɪ						

③ /ɔɪ/

方言：米英共通音

表記：/ɔɪ/, /oi/

単語：boy /bɔɪ/ oil /ɔɪl/ voice /vɔɪs/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	oi	ɔɪ	oi	ɔɪ	ɔɪ	ɔɪ	oi	oi	oi	ɔɪ
E	ɔɪ	ɔɪ	oi	ɔɪ						

④ /ou/ (米英異音二重母音)

方言：米音 (対応する英音は/əʊ/。⑤を参照。)

表記：/ou/, /ou/

単語：go /gou/ low /lou/ note /nout/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
E	ou	ou	ou	ou						

- E1, E3, E4 の発音記号表では、それぞれ「/ou/ (US)」、**「/ou/ (AmE)」**、**「/ou/ (American English)」**となっている。対応する英音は常に/əʊ/。
- 英和辞書では /ou/ が米音であることを発音記号表に明記したり、本文中で英音 /əʊ/ と併記しているものはひとつもない。ただし J1, J2, J4, J5, J8, J9 では発音解説で英音が /əʊ/ となることに触れている。J7 では「本事典の /ou/ は /ou|əʊ/ を代表している」とある。

⑤ /əʊ/ (米英異音二重母音)

方言：英音 (対応する米音は /oʊ/。④を参照。)

表記：/əʊ/

単語：go /gəʊ/ low /ləʊ/ note /nəʊt/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
E	əʊ	oʊ	əʊ	əʊ						

- ・この二重母音を発音記号表に掲載しているのは英英辞書 3 冊 (E1, E3, E4) のみである。
- ・E2 の発音記号表に /əʊ/ はない。本文中では /oʊ/ を使い、他の英英辞書のように /oʊ | əʊ/ という米音と英音の区別をつけていない。

⑥ /aʊ/

方言：米英共通音

表記：/aʊ/, /aʊ/

単語：house /háʊs/ now /náʊ/ out /áʊt/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	au	aʊ	au	aʊ	aʊ	aʊ	au	au	au	aʊ
E	aʊ	aʊ	aʊ	aʊ						

- ・J7 の発音記号表に /aʊ/ はない。発音解説には /aɪ/ と並べて /aʊ/ がある。

⑦ /ɪər/ (R 音性二重母音)

方言：米英異音

表記：/ɪər/, /iər/, /ɪəː/, /iəː/, /ɪə | ɪə/

単語：ear /ɪər/ hear /hɪər/ near /nɪər/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	iər	ɪər	iəː	ɪə ɪə	ɪə ɪə	ɪər	iər	iər	iər	ɪər
E	ɪr ɪəː	ɪəː	ɪr ɪə	ɪr ɪə(r)						

- ・英英辞書の発音記号表では E2 のみ米英異音を示す /ɪəː/ という表記を採用している。E1, E3, E4 の発音記号表には英音を示す /ɪə/ のみが採用されており、本文の表記で米音は母音 /ɪ/ + 子音 /r/ となっている。この点、米音の発音で /r/ の前に

/ə/ が入る英和辞書（および E2）と解釈が異なっている。E1 本文の英音表記 /ɪəʳ/ は発音記号表にはなく、記号 /r/ は「イギリス英語では後に母音が続くときに /r/ が発音される」ことを示す（E1 発音解説）。また、E4 本文の英音表記 /ɪə(r)/ も同様に「イギリス英語では次の語の語頭に母音が続くときにのみ /r/ が発音される」ことを示す（E4 発音解説）。

⑧ /ɪə/ [タイプ I] (R 音性関連二重母音) ※ [タイプ II] は⑩。

方言：英音（対応する米音は英和辞書と E2 では⑦の R 音性化された /ɪər/。E2 以外の英和辞書では /ɪr/ となっている。）

表記：/ɪə/ (E1, E3, E4 のみ)

単語：ear /ɪr|ɪə/ hear /hɪr|hɪə/ near /nɪr|nɪə/ (E3 の本文表記を代表例としておく。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ɪə	ɪəʳ	ɪəʳ	ɪə ɪə	ɪə ɪə	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər
E	ɪə	ɪəʳ	ɪə	ɪə						

- この表記は E1, E3, E4 の発音記号表でのみ採用されている。これらの辞書の本文中では、それぞれ以下のように米音と英音が常に併記されている。/ɪr|ɪəʳ/ (E1), /ɪr|ɪə/ (E3), /ɪr|ɪə(r)/ (E4)。

⑨ /eə/ (R 音性二重母音)

方言：米英異音

表記：/eər/, /eəʳ/, /eə|eə/, /ɛər/

単語：air /eər/ chair /tʃeər/ hair /heər/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	eər	eər	eəʳ	eə eə	eə eə	eər	ɛər	eər	eər	eər
E	er eə	eəʳ	er eə	er eə(r)						

- J7 は単母音の表記に /ɛ/ を使っていないが、この二重母音の表記は /ɛər/ としている。
- 英英辞書の発音記号表では E2 のみ米英異音を示す /eəʳ/ という表記を採用している。E1, E3, E4 の発音記号表には英音を示す /eə/ のみが採用されており、本文の表記で米音は母音 /e/ + 子音 /r/ となっている。この点、米音の発音で /r/ の前に

/ə/ が入る英和辞書 (および E2) と解釈が異なっている。E1 本文の英音表記 /eə^r/ は発音記号表にはなく、記号 /r/ は「イギリス英語では後に母音が続くときに /r/ が発音される」ことを示す (E1 発音解説)。また、E4 本文の英音表記 /eə(r)/ も同様に「イギリス英語では次の語の語頭に母音が続くときにのみ /r/ が発音される」ことを示す (E4 発音解説)。

⑩ /eə/ (R 音性関連二重母音)

方言：英音 (対応する米音は英和辞書と E2 では⑨の R 音性化された /eər/。E2 以外の英和辞書では /er/ となっている。)

表記：/eə/ (E1, E3, E4 のみ)

単語：air /er|eə/ chair /tʃer|tʃeə/ hair /her|heə/ (E3 の本文表記を代表例としておく。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	eər	eər	eə ^r	eə eə	eə eə	eər	eər	eər	eər	eər
E	eə	eə ^r	eə	eə						

- この表記は E1, E3, E4 の発音記号表でのみ採用されている。これらの辞書の本文中では、上記 E3 の表記例のように米音と英音が常に併記されている。

⑪ /ʊər/ (R 音性二重母音)

方言：米英異音

表記：/ʊər/, /uər/, /ʊə^r/, /uə^r/, /ʊə|ʊə/

単語：poor /puər|pɔː, puə/ sure /ʃʊər|ʃɔː, ʃuə/ tour /tuər|tuə, tɔː/ (J6 の本文表記の例。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	uər	ʊər, ɔːr	uə ^r	ʊə ʊə	ʊə ʊə	uər	uər	uər	uər	uər
E	ʊr ɔː ^r	ʊə ^r	ʊr ɔː	ʊr ɔː(r), ʊə(r)						

- 英英辞書の発音記号表では E2 のみ米英異音を示す /ʊə^r/ という表記を採用している。E1, E3, E4 の発音記号表には英音を示す /ʊə/ のみが採用されており、本文の表記で米音は母音 /u/ + 子音 /r/ となっている。この点、米音の発音で /r/ の前に /ə/ が入る英和辞書 (および E2) と解釈が異なっている。
- E4 本文の英音表記 /ʊə(r)/ は「イギリス英語では次の語の語頭に母音が続くときに

のみ /r/ が発音される」ことを示す (E4 発音解説)。

- J2 の発音記号表では /uər, ɔːr/ という表記になっている。これはカンマで区切られているため米英異音を示すのではなく (米英異音は /r/ が示している), 米音または英音において異なる発音があることを示す。E1, E3, E4 を見ると, R 音化しない /ɔː/ は英音である。
- J6 の発音記号表では /uər/ となっている。例として挙げられている単語, moor, cure, tour の本文表記はすべて /uər/ となっているため, 発音記号表における誤植と考えられる。

⑫ /uə/ (R 音性関連二重母音)

方言：英音 (対応する米音は英和辞書と E2 では⑪の R 音性化された /uər/。E2 以外の英和辞書では /ur/ となっている。)

表記：/uə/ (E1, E3, E4 のみ)

単語：pure /pjʊr | pjʊə(r)/ sure /ʃʊr | ʃʊə(r), ʃɔː(r)/ tour /tʊr | tʊə(r), tɔː(r)/ (E4 の本文表記の例。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	uər	uər, ɔːr	uə	uə uə	uə uə	uər	uər	uər	uər	uər
E	uə	uə	uə	uə						

この表記は E1, E3, E4 の発音記号表でのみ採用されている。これらの辞書の本文中では, 上記 E4 の表記例のように米音と英音が常に併記されている。

⑬ /ɪər/

方言：米英異音

表記：/ɪər/, /iər/, /-iər-/ (J6, J7, J8 のみ)

単語：appearance /əpiərəns/ serious /siəriəs/ weary /wiəri/ (J7 の本文表記より。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər	ɪər	-iər-	ɪər	ɪər
E	ɪr iər	iər	ɪr iər	ɪr iər						

- この表記が発音記号表に載っているのは, J6, J7, J8 のみである。
- J6 における斜体字 /ə/ の使用上の定義は, 「米・英のいずれかでは省略される発音は

斜体字で示す」ということである。

i>

- J7 においては /ər/ の表記を「/ər/ の表記は、英音では /ər/, 米音では /r/ となることを示す」と定義している。
- J8 では発音記号への注において、 /-eər-/ が米音では /-er-/ となり、英音では /-eər-/ となることを、他の米英異音とともにリストで示している。
- J6 では単語 appearance の発音記号は /əpɪər(ə)ns/ となっており、他の 2 つの単語の発音表記とは異なって、米英の発音の区別をつける /iər/ を使っていない。
- E2 を除く英英辞書においては米英の発音の違いが併記されている。E2 ではこの発音に米英の違いがないものとして扱われている。

注 上記単語例の発音記号は J7 のものを用いたので /iər/ だが、他の英英辞書 4 冊および 5 冊の英和辞書の表記では /ɪər/ あるいは /iər/ である。

⑭ /eər/

方言：米英異音

表記：/eər/, /ɛər/, /-eər-/ (J6, J7, J8 のみ)

単語：fairy /feəri/ parent /peər(ə)nt/ various /veəriəs/ (J6 の本文表記より。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	eər	eər	eər	e(ə)r	e(ə)r	eər	ɛər	-eər-	eər	e(ə)r
E	er eər	eər	er eər	er eər						

- この表記が発音記号表に載っているのは、J6, J7, J8 のみである。
- J6 における斜体字 /ə/ の使用上の定義は、「米・英のいずれかでは省略される発音は斜体字で示す」ということである。
- J7 においては /ər/ の表記を「/ər/ の表記は、英音では /ər/, 米音では /r/ となることを示す」と定義している。
- J8 では発音記号への注において、 /-eər-/ が米音では /-er-/ となり、英音では /-eər-/ となることを、他の米英異音とともにリストで示している。
- J4, J5 では単語によって多少本文中での表記に違いが見られる。例えば parent /pé(ə)rənt, páer-|péar-/ を見ると、米音では /ə/ が発音されることもあるが、英音では必ず /ə/ が発音されることになっている。しかし、various /vé(ə)riəs/ では米英の発音の区別は特につけられていない。
- E2 を除く英英辞書においては米英の発音の違いが併記されている。E2 ではこの発音

に米英の違いがないものとして扱われている。

⑮ /uər/

方言：米英異音

表記：/uər/, /u̯ər/, /-u̯ər-/ (J6, J7, J8 のみ)

単語：curious /kjuəriəs/ fury /fjuəri/ tourist /tuərist/ (J7 の本文表記より。)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	uər	u̯ər	uər	u̯(ə)r	u̯(ə)r	uər	uər	-u̯ər-	uər	u̯(ə)r
E	ur̥ uər	u̯ər	ur̥ u̯ər	ur̥ u̯ər						

- この表記が発音記号表に載っているのは、J6, J7, J8 のみである。
- J6 における斜体字 /ə/ の使用上の定義は、「米・英のいずれかでは省略される発音は斜体字で示す」ということである。
- J7 においては /ər/ の表記を「/ər/ の表記は、英音では /ər/, 米音では /r/ となることを示す」と定義している。
- J8 では発音記号への注において、/-eər-/ が米音では /-er-/ となり、英音では /-eər-/ となることを、他の米英異音とともにリストで示している。
- E2 を除く英英辞書においては米英の発音の違いが併記されている。E2 ではこの発音に米英の違いがないものとして扱っている。

注 上記単語例の発音記号は最も表記が単純な J7 のものを用いたので /uər/ としたが、他の英和辞書 5 冊および英英辞書 4 冊では /u̯ər/ または /u̯ər/ である。

⑯ /iə/ (米英異音二重母音)

方言：米音 (対応する英音は⑰の /ɪə/)

表記：/iə | ɪə/ (J7 のみ)

単語：idea /aidiə | aidɪə/ real /riəl | riɪl/ theater /θiətər | θiɪtər/ (J7 の表記例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə	iə ɪə
E	iə ɪə	iə		iə ɪə						

- /iə/ を発音記号表に含めているのは J7 のみである。
- J1 では単語例のうち idea のみ米英異音として扱われている。

- J3 は /iə/ と /Iə/ を対応する米英異音として扱っていない。
- E1 では単語例 idea の発音を米英異音として扱っていない。
- E2 では上記 3 個の単語例すべてを米英異音として扱っていない。米音表記のみ。
- E3 では上記 3 個の単語例すべてを米英異音として扱っていない。英音表記のみ。

⑪ /Iə/ [タイプ II] (米英異音二重母音) ※[タイプ I] は⑧。

方言：英音 (対応する米音は⑩の /iə/)

表記：/iə | Iə/ (J7 のみ)

単語：idea /aidiə | aidIə/ real /ri:əl | rIəl/ theater /θi:ətər | θIətər/ (J7 の表記例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	iə iə	iə Iə	iə	iə Iə	iə Iə	iə Iə	iə Iə	iə iə	iə iə	iə Iə
E	iə Iə	Iə	Iə	iə Iə						

- 米音 /iə/ に対応する英音として /Iə/ を発音記号表に含めているのは J7 のみである。英英辞書には R 音性二重母音の英音 /Iə/ (⑧), すなわち, 米音 /Ir/ (英和辞書では /Iər/) に対応する /Iə/ が掲載されているが, ここで扱われている /Iə/ とは性質が異なる。

⑫ /iə/

方言：英音

表記：/iə/ (E3 のみ)

単語：peculiar /pɪkju:liər | pɪkju:liə/ (E3 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	jər	jər iə	jə'	jə jə	jə jə	jər	jər iə	iər	iər	jər iə
E	jə iə'	iə'	iə	iə(r)						

- ここでは E3 の発音記号表に例として載っている peculiar の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。J1, J3, J4, J5, J6 には /iə/ の音は現れない。

⑬ /uə/

方言：英音

表記：/uə/ (E3 のみ)

単語：actual /æktʃuəl/ (E3 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	uə	uə	uə	uə, ə	uə, ə	u(ə)	uə	uə	uə	uə
E	uə, ʊə	uə	uə	uə						

- ここでは E3 の発音記号表に例として載っている actual の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。
- J1 には「+英 æktjuəl」の追記がある。
- J4 と J5 には /u/ の発音されない /æktʃəl/ も併記されている。
- J8 には /uə/ の発音されない /æktʃl/ も併記されている。
- E1 には /æktjuəl/ も併記されている。

㊴ /ju/

方言：米英共通音

表記：/ju/ (J4, J5 のみ)

単語：popular /pəpjulə|pɒpjulə/ (J4, J5 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ju	jʊ	jə ju	jʊ	jʊ	jə jʊ	ju	jə	jə	jə jʊ
E	jə jʊ	jʊ	jʊ, jə jʊ, jə	jə						

- /ju/ を発音記号表に掲載しているのは J4 と J5 のみである。
- ここでは J4, J5 の発音記号表に例として載っている popular の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。/ju/ または /jʊ/ のかわりに /jə/ としているものもある (J6 米音, J8, J9, J10 米音, E1 米音, E3 の異音, E4)。

㊵ /ju/

方言：米英共通音

表記：/ju/ (J4, J5 のみ)

単語：manual /mænjuəl/ (J4, J5 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ju	ju	ju	ju	ju	ju	ju	ju	ju	ju
E	ju	ju	ju	ju						

- /ju/ を発音記号表に掲載しているのは J4 と J5 のみである。

- ここでは J4, J5 の発音記号表に例として載っている manual の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。本文中での表記は14冊すべて同じである。

② /ju: / [タイプ I]

方言：米英共通音

表記：/ju: / (J4, J5, J7 のみ)

単語：cute /kjut/ few /fju: / (J4, J5 および J7 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:	ju:
E	ju:	ju:	ju:	ju:						

- /ju: / を発音記号表に掲載しているのは J4, J5 と J7 のみである。
- ここでは J4, J5 の発音記号表に例として載っている cute および, J7 の例として載っている few の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。どちらの単語も本文中での表記は14冊すべて同じである。

③ /ju: / [タイプ II] (米英異音母音)

方言：英音 (対応する米音は /u: /)

表記：表記：/(j)u: / (J8 のみ)

単語：new /n(j)u: / pursue /pərs(j)u: / (J8 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	ju:	ju:	ju:	(j)u: ju:	(j)u: ju:	u:, ju: ju:	ju: ju:	(j)u:	ju: ju:	(j)u: ju:
E	u: ju:	u: ju:	u: ju:	u: (j)u:	u: (j)u:	ju:	u: ju:		u: ju:	u: ju:

- 英音の /ju: / を /(j)u: / という表記で発音記号表に掲載しているのは J8 のみである。
J8 における () は省略可能を示している。また、発音記号表への注の中で、米音と英音の異なる発音のリストに、「(j)u: → 米 u: 英 ju:」をあげている。
- ここでは J8 の発音記号表に例として載っている new および pursue の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。
- J1, J2, J3 における斜体 (/j/) は省略可能を示している。米音と英音の違いには言及していない。

- ・ J4, J5における () は省略可能を示している。
- ・ J6 における斜体 (/j/) の定義は「米・英のいずれかでは省略される発音」ということであるが、米英のどちらの発音で省略されるのかはこの定義では不明。
- ・ J7 における斜体 (/j/) は省略可能を示しており、「/j/ 音を省略するのは米音」と明記してある。
- ・ J9 における斜体 (/j/) は省略可能を示している。
- ・ J10 における () は省略可能を示している。

B. 三重母音

㊤ /aɪər/ (R 音性三重母音)

方言：米英異音

表記：/aɪər/, /aɪə|aɪə/, /aɪə^r/, (/aɪə/)

単語：fire /faɪər/ inspire /ɪnspɑɪər/ wire /waɪər/

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	aɪər	aɪər	aɪə ^r	aɪə aɪə	aɪə aɪə	aɪər	aɪər	aɪər	aɪər	aɪər
E	aɪə	aɪə ^r	aɪr aɪə	aɪə(r)						

- ・ 英和辞書では J4, J5, J10 がこの三重母音を発音記号表に記載している。
- ・ 英英辞書では E1 が /aɪə/ という形で、また E2 が /aɪə^r/ の形で記載している。
- ・ E1 の本文では /aɪr|aɪə^r/ と米英併記されている。

㊥ /aʊər/ (R 音性三重母音)

方言：米英異音

表記：/aʊər/, /aʊər/, /aʊə|aʊə/, /aʊə/, /aʊə^r/

単語：flower /flaʊər/ hour /aʊər/ tower /taʊər/ (J10 の表記例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	aʊər	aʊər	aʊə ^r	aʊə aʊə	aʊə aʊə	aʊər	aʊər	aʊər	aʊər	aʊər
E	aʊə	aʊə ^r	aʊər aʊə	aʊə(r)						

- ・ R 音性三重母音として /aʊər/ を発音記号表に記載しているのは、J4, J5, J7, J10, E2 であり、E1 は R 音性を明示しない /aʊə/ の形で記載している。
- ・ J10 の本文では flower は /aʊər/, hour と tower は /aʊər/ と表記している。
- ・ E1 では発音記号表には /aʊə/ が記載されているが、本文中での実際の表記は

flower と tower は /aʊə|aʊəʳ/, hour は /aʊr|aʊəʳ/ と米英併記されている。

・E3 の本文では, flower と tower は /aʊər|aʊə/, hour は /aʊr|aʊə/ となっている。

②⑥ /juər/ (R 音性三重母音)

方言：米英異音

表記：/juər/ (J7), /juə|juə/ (J4 と J5)

単語：pure /pjuər/ (J4, J5 および J7 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	juər	juər	juəʳ	juə juə	juə juə	juər	juər	juər	juər	juər
E	juəʳ	juəʳ	jʊr juə	jʊr juə(r)						

- ・/juər/ (/juə|juə/) を発音記号表に掲載しているのは J4, J5 と J7 である。
- ・ここでは J4, J5 および J7 の例として載っている pure の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。
- ・J8 には「(米+) jə:r, (英+) jɔ:r」も併記されている。
- ・E4 では発音記号表の /uə/ (英音) の例として単語 pure をあげている。すなわち, /juə/ を三重母音としてではなく, 子音 /j/ + 二重母音 /uə/ として扱っていることがわかる。

②⑦ /juər/

方言：米英異音

表記：/juər/ (J7 のみ)

単語：Europe /juərəp/ (J7 の発音記号表の例)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J	juər	juər	juər	jʊ(ə)r	jʊ(ə)r	juər	juər	juər	juər	jʊ(ə)r
E	jʊr juər	—	jʊr juər	jʊr juər						

- ・/juər/ を発音記号表に掲載しているのは J7 のみ。(J7 では /u/ がないので /juər/。)
- ・ここでは J7 の発音記号表に例として載っている Europe の該当部分の発音が各辞書でどのように記述されているかを表にした。
- ・E2 には本文の見出しとして Europe がない。

3. 発音表記における諸問題

前節における各辞書の比較対照の結果をふまえて、本節では発音表記の異同の特徴を分析し、表記が一致しない理由を整理していく。

3.1 /ɪ/ と /i/, /ʊ/ と /u/ の表記

/eɪ/ と /ei/, /ou/ と /ou/ などにおける表記のばらつきは、各辞書における単母音の /ɪ/ と /i/, /ʊ/ と /u/ の取り扱い方が二重、三重母音の表記方法にも反映している。単母音の表記方法の異同を扱った拙論で言及したように⁽²⁾、英和辞書の J1, J3, J7, J8, J9 が /ɪ/ と /ʊ/ を発音表記に採用していない⁽³⁾。本論では /ɪ/ と /ʊ/ の使用を前提として比較検討を進めていく。

3.2 R 音性母音の表記の違い

R 音性二重母音、三重母音の表記方法にも各辞書の R 音性単母音の表記方法が反映している。2.3で比較対照した発音項目の中で R 音性のものは以下のとおりである。

発音項目⑦ /ɪər/ (異なる表記: /iər/, /iəː/, /ɪə|ɪə/)

発音項目⑨ /eər/ (異なる表記: /eər/, /eəː/, /ɛər/, /eə|eə/)

発音項目⑪ /ʊər/ (異なる表記: /uər/, /ʊəː/, /uəː/, /ʊə|ʊə/)

発音項目⑭ /aɪər/ (異なる表記: /aɪər/, /aɪəː/, /aɪə|aɪə/, /aɪə/)⁽⁴⁾

発音項目⑮ /aʊər/ (異なる表記: /aʊər/, /aʊəː/, /aʊə|aʊə/, /aʊə/, /aʊəː/)⁽⁵⁾

発音項目⑯ /juər/ (異なる表記: /juər/, /juə|juə/)

発音項目⑦ /ɪər/ に関しては、表記方法の違いはあっても10冊の英和辞書すべてが発音記号表に記載している。英英辞書の場合には E2 が /iəː/ を記載しているが、他の3冊では英音を示す /iə/ のみが記載されている。また、英和辞書に採用されている /ɪər/ は米

(2) 岩井 (2006)。

(3) 2006年12月に改訂第4版が出た J8(『ジーニアス英和辞典』大修館書店) においては /ɪ/ と /ʊ/ の記号が採用された。

(4) E1 の発音記号表では R 音性を明示しない /aɪə/ となっているが、本文では /aɪr|aɪəː/ と米英併記されている。E1 での /r/ の用法の定義は「英音では次に子音が続く場合に /r/ が発音される」ということである。

(5) E1 の発音記号表では R 音性を明示しない /aʊə/ となっているが、本文では /aʊə|aʊəː/ または /aʊr|aʊəː/ という形で米英併記されている。

英の発音を分けて記述すると /ɪər|ɪə/ となるが、E2 を除く英英辞書では違う表記となる。E1, E3, E4 の発音記号表には英音を示す /ɪə/ のみが採用されており、本文の米音表記は母音 /ɪ/ + 子音 /r/ である。つまり本文中の表記は /ɪr|ɪər/, または /ɪr|ɪə/, または /ɪr|ɪə(r)/ となり、/ə/ が入る英和辞書の米音表記 (/ɪər|ɪə/) と異なっている。これは発音項目⑨の /eər/, 発音項目⑪の /uər/ にも見られる違いである。発音項目⑨の場合には、英和辞書の表記が実際に表す米音は /eər/ であるのに対し、英英辞書では /er/ となり、発音項目⑪の場合には、/uər/ に対して /ur/ となる。

発音項目⑪ /uər/ に関しては英和辞書 5 冊 (J1, J2, J3, J8, J9) が発音記号表の例として単語 poor を挙げているのだが、本文中での実際の表記を見ると、米音 /puər/ に対する英音は /puə/ よりもむしろ /pɜ:/ が優勢のようである。同様の例は単語 sure にも見られる。それに対して pure と tour では米音 /uər/ に対応する英音として /uə/ が優先されている。

R 音性三重母音の /aɪər/, /aʊər/, /juər/ に関しては発音記号表に記載している辞書よりも記載していない辞書が多い。発音項目⑭の /aɪər/ を採用している英和辞書は 10 冊中 3 冊、英英辞書は 4 冊中 2 冊、発音項目⑮の /aʊər/ を採用している英和辞書は 10 冊中 4 冊^⑥、英英辞書は 4 冊中 2 冊、発音項目⑯の /juər/ を採用しているのは英和辞書の 3 冊である。ちなみに、発音項目⑯の /juər/ を採用している J4, J5, J7 では例として単語 pure を挙げているが、E2 と E4 の発音記号表では pure は発音項目⑪ /uər/ の英音である /uə/ の例として挙げられている。このことはこの 2 冊の英英辞書において、/juə/ という音の並びが子音 /j/ + 二重母音 /uə/ と解釈されていることを示すものである。

3.3 /j/ から始まる二重母音と三重母音

音声学でいうところの硬口蓋接近音 (palatal approximant) の /j/ を二重母音、三重母音の構成要素として発音記号表に含めている辞書のは数は少ない。すでに 3.2 で三重母音の /juər/ について触れたが、この音を発音記号表に記載しているのは英和辞書の 3 冊である (J4, J5, J7)。二重母音の構成要素として /j/ を記載しているのは、発音項目⑳の /ju/ (J4 と J5)、発音項目㉑の /ju/ (J4 と J5)、発音項目㉒の /ju:/ (J4, J5, J7)、発音項目㉓の /ju:/ (J8) である^⑦。以上のように英和辞書の中には /j/ を二重母音、三重

⑥ 2006年12月に第4版に改訂された J8 (『ジーニアス英和辞典』大修館書店) においては、旧版の発音記号表にはなかった /aɪər/ と /aʊər/ が採用された。

母音の構成要素として扱うものがあるのに対し、4冊の英英辞書では /j/ を子音としてのみ扱っている。

4. 教育上の効率を上げるための合理的な発音表記の検討

本論では英語の発音教育において発音記号が十分に活用されにくいのは、各辞書の間に表記のばらつきがあるからではないかという疑問を前提としている。本節では今回の比較対照作業を通じて得た情報をもとに、発音表記の統一の可能性を考察してみたい。

4.1 すべての辞書サンプルに共通の二重母音

サンプルとして用いた14冊すべての辞書の発音記号表に採用されていて必須とみなされている基本的な二重母音は以下の通りである。

発音項目①: /eɪ/

発音項目②: /aɪ/

発音項目③: /ɔɪ/

発音項目④: /oʊ/

発音項目⑥: /aʊ/

これら5つの二重母音の中で注意が必要なのは発音項目④の /oʊ/ であろう。3冊の英英辞書 (E1, E3, E4) の発音記号表において明示されているとおり、/oʊ/ は米音であって英音では発音項目⑤の /əʊ/ になる。上記3冊の英英辞書では /əʊ/ を米音 /oʊ/ に対応する英音として発音記号表に含めているが、英和辞書には /əʊ/ を含める慣習がない。米音もしくは英音でしか現れない二重母音を個別に発音記号表に含めるよりは、米英で必ず対応する異音となる場合には、/oʊ | əʊ/ のように併記方式をした方が学習者にとっては親切ではなかろうか。この点に関しては4.2.4においてあらためて論じることとする。

(7) 『ジーニアス英和辞典』(第3版, 第4版とも)の発音記号表での表記は / (j) uː / であり, 単母音の / uː / のすぐ後に並べられている。この表記は米音 / juː / に対応する英音が / uː / であることを示している。解釈としては米音で子音 / j / の後に長母音 / uː / が続く場合には, 英音で / j / が消えるとすべきかもしれないが, 本論では便宜的にこの米音 / juː / を二重母音と解釈して発音項目②とした。

4.2 米英異音二重母音

単母音と同様に二重母音の表記においても事情を複雑にするのは米音と英音の発音が異なるものである。ひとつには表記のしかたをどのようにすべきかという問題があり、また対応関係のある米音と英音をどの範囲で発音記号表に含めるのかという問題がある。ここではR音性二重母音とその他の二重母音に分けて表記の問題を考えてみたい。

4.2.1 R音性二重母音

サンプルとして用いた14冊の辞書に記載されているR音性二重母音は以下のとおりである。

発音項目⑦: /Iər/

発音項目⑧: /Iə/ (英音)

発音項目⑨: /eər/

発音項目⑩: /eə/ (英音)

発音項目⑪: /uər/

発音項目⑫: /uə/ (英音)

3.2で見たように10冊の英和辞書および E2 では、発音項目⑦, ⑨, ⑪の表記またはその異形を採用することで、これがR音性二重母音であることを明示している。しかし、英英辞書3冊 (E1, E3, E4) では英音の発音表記のみを発音記号表に記載している。もともと英英辞書3冊ではR音化する単母音 /ə/ を表記するのに、発音記号表には /ə/ のみを記載し、本文での記述を /ə|ə/ (E1), /ər|ə/ (E3 と E4) という併記方式にしている。単母音 /ə/ そのものは米音にも英音にも使われる発音表記であるため問題なかったのだが、二重母音の /Iə/, /eə/, /uə/ は米音には現れないため、英音であることを発音記号表に明記しなければならない。英和辞書のように /ə/ の後ろに /r/ (斜体の /r/) をつけることで、1つの記号でR音性母音を表記する慣習が英英辞書にはないからである⁽⁸⁾。

発音記号表に英和辞書式 (斜体の /r/) を採用するか、英英辞書式 (英音のみ記載) を採用するかであるが、発音項目⑦ /Iər/ と発音項目⑨ /eər/ については、英和辞書式を採用しても大きな問題は起きないように思える。しかし、発音項目⑪ /uər/ については注意

(8) この /r/ という記号は国際音声学協会 (IPA) で認められた記号ではなく、その使用について竹林滋氏が著書 (竹林1996, pp. 294-96.) において音声学の専門家の立場から強く反対している。

が必要である。その理由は、単語によっては米音 /uər/ に対応する英音が /uə/ ではなく /ɔ:/ の場合があるからである。以下の表は発音項目⑪ /uər/ の用例としていくつかの辞書の発音記号表にあげられている4つの単語が本文中で実際にどのように記述されているかを示したものである。

	poor	pure	sure	tour
J1	puər, +英 pɔ:	pjuər	ʃuər	tuər
J2	puər pɔ:, puə	pjuər	ʃuər, ʃæ:r ʃɔ:, ʃuə	tuər
J3	puə ^r pɔ:	pjuə ^r	ʃuə ^r ʃɔ:	tuə ^r
J4	puə, pɔə pɔ:, puə	pjuə pjuə	ʃuə, ʃæ:r ʃɔ:, ʃuə	tuə tuə
J5	puə, pɔə pɔ:, puə	pjuə pjuə	ʃuə, ʃæ:r ʃɔ:, ʃuə	tuə tuə
J6	puər pɔ:, puə	pjuər	ʃuər ʃɔ:, ʃuə	tuər tuə, tɔ:,
J7	puər pɔ:	pjuər	ʃuər	tuər
J8	puər, pɔ:r pɔ:, puə	pjuər, 米+pjɜ:r, 英+pjɔ:	ʃuər, ʃæ:r ʃɔ:, ʃuə	tuər, 英+tɔ:
J9	puər pɔ:, puə	pjuər	ʃuər ʃɔ:	tuər
J10	puər	pjuər	ʃuər, ʃɔ:r ʃuə, ʃɔ:	tuər
E1	pʊr pɔ: ^r	pjʊr pʊə ^r	ʃʊr ʃɔ: ^r	tʊr tʊə ^r , tɔ: ^r
E2	pʊə ^r pɔ: ^r	pjʊə ^r	ʃʊə ^r	tʊə ^r
E3	pʊr pɔ:	pjʊr pjuə	ʃʊr ʃɔ:	tʊr tuə
E4	pɔ:r, pʊr pɔ:(r), pʊə(r)	pjʊr pjuə(r)	ʃʊr ʃuə(r), ʃɔ:(r)	tʊr tʊə(r), tɔ:(r)

これを見ると、pure と tour の発音を記述するには /uər/ で不都合がないが、poor と sure の場合には問題が生じることがわかる。表を見ると、J3, J7, E1, E2, E3 においてはR音性の米音 /uər/ に対応する英音の記述が /ɔ:/ のみとなっていて /uə/ という表記はない。そのため、J10 の poor /puər/ という記述は英音の /pɔ:/ を示すことはできないし、J1 と J7 の sure /ʃuər/ も /ʃɔ:/ を示すことはできない。この問題を回避するためには、ほとんどの辞書がそうしているように、poor や sure のような単語の記述には米英併記方式を採用するべきであろう。

4.2.2 米音と英音の間に規則的置換関係のある /ɪər/, /eər/, /uər/

発音項目⑬ /ɪər/, 発音項目⑭ /eər/, 発音項目⑮ /uər/ は、米音において子音 /r/ の前の /ə/ が消える発音の表記である。この発音表記を発音記号表に含めているのは J6, J7, J8 の3冊の英和辞書である。本文における実際の発音記述においては、英和辞書のすべてが /ə/ (斜体の /ə/), もしくは /(ə)/ (括弧付きの /ə/) を用いて、J6, J7, J8 と

同じ内容を記述している。これに対して、英英辞書の3冊（E1, E3, E4）は米英併記方式によって発音の違いを記述している。14冊のうちで E2 だけが米英の発音に違いを認めない /ɪər/, /eər/, /uər/ という記述になっている。英和辞書方式を用いるか英英辞書方式を用いるかについてだが、例えば発音項目⑬の /ɪər/ という記号が発音項目⑦の /ɪər/ と見分けにくいことを考えると、英英辞書における米英併記方式の方が学習者にとって親切であると思われる。

4.2.3 米音と英音の間に規則的置換関係のある /iə/ と /ɪə/

J7 のみ米音と英音の間に規則的置換関係のある /iə/（発音項目⑩）と /ɪə/（発音項目⑪）を、/iə | ɪə/ という米英併記方式で発音記号表に記載している。これは例えば、単語 **idea** の米音 /aɪdɪə/ と英音 **idea** /aɪdɪə/ の違いを示すものである。他の辞書の発音記号表にはないが、本文中の記述ではほとんどの辞書が J7 と同じく /iə | ɪə/ という米英併記方式を使っている。発音記号表にこの米英併記方式を掲載しておくことは学習者にとって有益であろう。

4.2.4 米音と英音の間に規則的置換関係のある /ou/ と /əu/

発音項目④の米音 /ou/ に対応する英音は発音項目⑤の /əu/ であり、3冊の英英辞書（E1, E3, E4）にはそれぞれ「米音」、「英音」という注をつけて記載されている。それに対して10冊の英和辞書では本文記述においても **note** /nəʊt/ のように /ou/ しか用いていない。米英で必ず規則的な置換関係がある場合には /ou | əu/ のように併記方式をした方が学習者にとって有益であると思われる。

4.3 /j/ について

3.3で触れたように二重母音、三重母音の構成要素として /j/ の音を発音記号表に含めるべきか否かという点で各辞書の間にばらつきがある。英英辞書4冊では /j/ を子音と解釈して二重母音、三重母音の構成要素としては取り扱っていない。英和辞書では J4, J5, J7, J8 の発音記号表に記載されている。発音項目⑳ /ju/, ㉑ /ju/, ㉒ /juː/, ㉓ /juː/（英音）、㉔ /juər/, ㉕ /juər/ の5個の表記があるが、英英辞書式にこれらを削除する方が発音記号表が簡潔なものとなるのではないだろうか。ギムスンは「/j/, /w/ は音節においては中心的ではなく周縁的で、ほとんど子音のような機能を果たしており、実際また音声的にも **tune** の /j/ や **queen** の /w/ は無声になりやすく、子音の特徴である摩擦を

有する傾向もある。これらの理由から音節の始めの /j/ と /w/ は音節の母音核とは区別して子音の項目に含めたほうがよいであろう」と述べている⁽⁹⁾。ただ、J8 のみが採用している発音項目②③ /ju:/ は (J8 の発音記号表の表記は /()ju:/), 単語 *new* (米音 /nu:/, 英音 /nju:/) などにおける米音と英音の規則的な置換関係を表示するものなので、発音記号表には米英併記方式で残しておいた方が学習者にとって便利であると思われる。その場合の表記は /u:|ju:/ となるので、二重母音としてよりもむしろ単母音における米英の発音の対応を示す表記として発音記号表に掲載すべきであろう。

4.4 R 音性三重母音の /aɪər/ と /aʊər/

J4, J5, J7, J10, E1, E2 の発音記号表には R 音性三重母音として /aɪər/ (発音項目④) と /aʊər/ (発音項目⑤) が記載されている。この 2 個の三重母音を発音記号表に記載すべきかどうかは問題となる。記載しないと不都合が起こるということであれば記載しなければならないが、そうでなければ発音記号表を単純化するという意味で削除した方が望ましい。実際のところ、英和辞書 6 冊、英英辞書 2 冊がこの 2 個の三重母音を発音記号表に記載していないことを考えると、発音記号表に含める必要はないようである。音声学的に考えると、/aɪər/ と /aʊər/ はそれぞれ、二重母音 /aɪ/ と /aʊ/ に (R 音化する) /ə/ が連続しているものである。したがって、/aɪ/ + /ə/, /aʊ/ + /ə/ と考えれば、発音記号表にある単母音の /ə/ と二重母音の /aɪ/, /aʊ/ の組み合わせで記述が可能となる⁽¹⁰⁾。

以上、英語学習辞書における二重母音、三重母音の発音表記の違いに関する考察に基づいて、教育実践上合理的と思われる発音記号表を以下に提案し、本論のしめくくりとした。

(9) A. C. Gimson, *An Introduction to the Pronunciation of English*, 3rd edition (1980, London: Edward Arnold). (竹林滋訳『ギムスン英語音声学入門』p. 106, 1983年, 金星堂)

(10) なお、英音の /aɪə/ と /aʊə/ は速い発音において 2 番目の要素である /ɪ/ と /ʊ/ を落とす傾向があり、/aɪə/, /aʊə/ とともに /aɪə/ に変えられて、*tire* /taɪə/ と *tower* /taʊə/ がともに /taɪə/ と発音されることがある。

教育用発音記号表（案）
二重母音（R 音性、米英異音を含む）

近い響き	記号	用 例	備 考
アイ	/aɪ/	buy /baɪ/ eye /aɪ/	
アウ	/aʊ/	house /haʊs/ now /naʊ/	
イアー	/ɪər/	ear /ɪər/ near /nɪər/	R 音性
ウアー	/ʊər/	pure /pjʊər/ tour /tʊər/	R 音性
エイ	/eɪ/	day /deɪ/ make /meɪk/	
エアー	/eər/	air /eər/ chair /tʃeər/	R 音性
オイ	/ɔɪ/	boy /bɔɪ/ oil /ɔɪl/	
イル イアル	/ɪr ɪər/	appearance /əpɪrəns əpɪərəns/ serious /sɪrɪəs sɪərɪəs/	米英異音
イーア イア	/iə ɪə/	idea /aɪdɪə aɪdɪə/ real /rɪəl rɪəl/	米英異音
ウル ウアル	/ʊr ʊər/	curious /kɹɪʊəs kɹuəriəs/ tourist /tʊrɪst tʊərɪst/	米英異音
ウアー オー	/ʊər ɔ:/	poor /pʊər pɔ:/ sure /ʃʊər ʃɔ:/	米英異音
エル エアル	/er eər/	fairy /ferɪ feəri/ various /vərɪəs veəriəs/	米英異音
オウ アウ	/oʊ əʊ/	go /ɡoʊ ɡəʊ/ note /noʊt nəʊt/	米英異音

付録

教育用発音記号表 (案)

単母音 (短母音・長母音・R音性母音・母音+子音 /r/)

近い響き	記号	用 例	備 考
ア	/æ/	bag /bæg/ cat /kæt/	
	/ʌ/	come /kʌm/ must /mʌst/	
	/ə/	about /əbaʊt/ collect /kəlekt/	弱い「ア」
アー	/ɑ:/	calm /kɑ:m/ father /fɑ:ðər/	
アー	/ɑ:r/	① arm /ɑ:rm/ heart /hɑ:rt/	米で常に /r/ 発音
	/ɑ:r*/	② car /kɑ:r*/ far /fɑ:r*/	*英も母音の前で /r/ 発音
ア	/ər/	① perhaps /pərhaps/ Saturday /sætərdei/	米で常に /r/ 発音
アー	/ər*/	② cover /kʌvər*/ sister /sɪstər*/	*英も母音の前で /r/ 発音
アー	/ə:r/	① bird /bɜ:rd/ early /ɜ:rlɪ/	米で常に /r/ 発音
	/ə:r*/	② fur /fɜ:r*/ occur /əkɜ:r*/	*英も母音の前で /r/ 発音
イ	/ɪ/	busy /bɪzi/ sit /sɪt/	
	/i/	create /kri:ɪt/ happy /hæpi/	弱い「イ」
イー	/i:/	meat /mi:t/ people /pi:pl/	
ウ	/ʊ/	book /bʊk/ put /put/	
	/u/	actual /æktʃuəl/ influence /ɪnfluəns/	弱い「ウ」
ウー	/u:/	school /sku:l/ too /tu:/	
エ	/e/	bed /bed/ end /end/	
オー	/ɔ:/	all /ɔ:l/ story /stɔ:ri/	
オー	/ɔ:r/	① morning /mɔ:rnɪŋ/ warm /wɔ:rm/	米で常に /r/ 発音
	/ɔ:r*/	② four /fɔ:r*/ store /stɔ:r*/	*英も母音の前で /r/ 発音
ア オ	/a ɔ/	box /baks bɔks/ got /gat gɔt/	米/a/は必ず英/ɔ/
ア アー	/æ ɑ:/	ask /æsk ɑ:sk/ laugh /læf lɑ:f/	米/æ/で英/ɑ:/あり
オー オ	/ɔ: ɔ/	dog /dɔ:g dɔg/ long /lɔ:g lɔg/	米/ɔ:/で英/ɔ/あり
アー ア	/ə:r ʌr/	courage /kə:riɪdʒ kʌriɪdʒ/ hurry /hə:ri hʌri/	米/ə:r/は必ず英/ʌr/
ウー ユー	/u: ju:/	new /nu: nju:/ pursue /pə:su: pə:sju:/	米/u:/は必ず英/ju:/

・R音性母音が語末にくる例では、次に続く語の語頭が母音である場合にイギリス発音でも /r/ を発音することを示すために /r*/ とした。

参 考 文 献

- [1] 堀内克明 (編). 1999年. 『旺文社新英和中辞典』. 初版. 旺文社. [J1]
- [2] 花本金吾ほか (編). 2003年. 『旺文社レクシス英和辞典』. 初版. 旺文社. [J2]
- [3] 山岸勝榮ほか (編). 2006年. 『スーパー・アンカー英和辞典』. 第3版. 学習研究社. [J3]
- [4] 竹林 滋ほか (編). 2006年. 『新英和中辞典』. 第7版. 研究社. [J4]
- [5] 竹林 滋ほか (編). 2005年. 『ルミナス英和辞典』. 第2版. 研究社. [J5]
- [6] 井上永幸, 赤野一郎 (編). 2003年. 『ウィズダム英和辞典』. 初版. 三省堂. [J6]
- [7] 國廣哲彌ほか (編). 2005年. 『小学館プログレッシブ英和中辞典』. 第4版. 小学館. [J7]
- [8] 小西友七, 南出康世 (編). 2001年. 『ジーニアス英和辞典』. 第3版. 大修館書店. [J8]
- [9] 小西友七, 南出康世 (編). 2006年. 『ジーニアス英和辞典』. 第4版. 大修館書店.
- [10] 浅野 博ほか (編). 2002年. 『アドバンストフェイバリット英和辞典』. 初版. 東京書籍. [J9]
- [11] 田中茂範ほか (編). 2003年. 『Eゲイト英和辞典』. 初版. ベネッセコーポレーション. [J10]
- [12] Walter, Elizabeth et al. (eds.). 2005. *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*. 2nd ed. Cambridge, UK : Cambridge University Press. [E1]
- [13] Sinclair, John et al. (eds.). 2006. *Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary*. 5th ed. Glasgow, UK : HarperCollins Publisher. [E2]
- [14] Summers, Della et al. (eds.). 2003. *Longman Dictionary of Contemporary English*. 4th ed. Harlow, UK : Pearson Education Ltd. [E3]
- [15] Wehmeier, Sally et al. (eds.). 2005. *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 7th ed. Oxford UK : Oxford University Press. [E4]
- [16] 竹林 滋, 斎藤弘子. 1998年. 『改訂新版 英語音声学入門』. 大修館書店.
- [17] 竹林 滋. 1996年. 『英語音声学』. 研究社.
- [18] Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow, UK : Longman.
- [19] Gimson, A. C.. 竹林 滋 (訳). 1983年. 『ギムスン 英語音声学入門』. 金星堂.
- [20] 小泉 保, 牧野 勤. 1971年. 『英語学体系 I 音韻論 I』. 大修館書店.